



はぐくみ

《学校教育目標》 ゆたかな心とたくましい体をもつ子どもの育成

立花北小 校長室だより

令和6年11月12日発行
No.5「自分らしく世界を広げて」

発行者：校長 佐野 正信

自分らしく世界を広げて ～立花北小図工展2024～

本校では、学校目標「ゆたかな心とたくましい体をもつ子どもの育成」に向け、上手か下手かではなく、自分らしく表現する楽しさを味わわせることを大切に造形教育に取り組んでいます。子どもたちの作品は、いかがでしたか。たくさんの方々にご鑑賞いただき、感謝申し上げます。



<1年生>

○平面「くじらぐもにのって」

空の青と雲の白、そのコントラストがとっても美しい作品。何より、そこで遊ぶ子どもたちの表情が笑顔でとても素晴らしい。楽しい気持ちで作っている様子が思い浮かんでくる作品でした。

○立体「おいしいパフェをめしあがれ」

どれひとつとして同じパフェが見あたりません。プリン、白玉、フルーツがのって、ソフトクリームやホイップクリームもふんだんに…。一緒に食べる人まで思い浮かべてストローの本数までこだわってつくっていることに感心しました。



<2年生>

○平面「会ってみたいこんな生き物」

作品に添えられた子どもたちの言葉を読むと、生き物をうまく描くこと、切るのに苦労したこと、色選びにこだわったこと…など、一人一人見てほしい思いがしっかりあること、そして出来上がった時の満足感がよく伝わってきました。

○立体「まどからこんにちは」

丸い建物、角ばった建物、平たい建物、屋根の形を工夫したり、煙突が付いていたり、階段でつないだりと、思い思いの個性的な建物がならぶ素敵な町ができました。



<3年生>

○平面「こんな乗り物で旅に出たよ！」

原色をそのまま塗るのではなく、色を混ぜたり、水の量を調節したりして、色づくりを工夫していることがよく伝わってきました。それぞれが工夫を凝らした個性豊かな乗り物が、画用紙から立体的に浮き出して、今にも動き出しそうでした。

○立体「うごいて楽しいわりピンワールド」

初めて使うわりピンというツールをどのように使うのか、最初はよくわからず苦戦したようです。ところが、試行錯誤を重ねるうちに、テーブルがクルクル回ったり、動物の首やしっぽが動いたり、踏切のバーが上下したり…と、少しずつわりピンの特徴をうまく生かせるようになってきました。進化させながら作品を仕上げたようすがよく伝わってくる3年生の立体作品、頭をいっぱい使った力作が並びました。



<PTA有志>

色づく葉、カキにキノコにどんぐり…と、オープンスクールの合間をうまく利用して、図工展入口に素敵な秋のディスプレイを制作してくださったPTAの皆さま。子どもたちの図工展にお父さんやお母さんも参加していただき、とってもうれしいですね。



<4年生>



○平面「まぼろしの花」

花のデザインはもちろん、使っている技法も様々で、個性あふれる作品がならびました。実際にある花を見ながら描くのではなく、まぼろしの花を思い浮かべて描くのは難しかったと思います。原色を使わず、少しずつ色を変えたり、色を混ぜたりと、工夫が感じられました。図工から芸術の域に入るレベルの高い創作によく挑戦しました。

○立体「おもしろダンボールボックス」

段ボールの切り方や開き方、積み重ね方などが一人一人違って、工夫が感じられました。ボックスの中に入っている「元気のお守り」は、どれもこだわりが感じられ、一人一人全員に思いを聞いてみたいと思いました。

<5年生>

○平面「心のもよう」／「まだ見ぬ世界」

5年生は、これまで学んだ技法を用いて、心を見つめて表現するという難しい課題に挑戦した「心のもよう」。形のない「心」を表現するというのは、とても難しかったと思います。

一方、一枚の写真から世界を広げていく「まだ見ぬ世界」も、作品づくりとしては大変奥の深い活動で、5年生の心の成長を感じる世界観が広がりました。

○立体「糸のこすいすい」

電動の糸のこを操って板を切る、色やもようを工夫する、そして、立体的に組み上げていく…という作業は、まさに芸術の域！同じ作品が一つとしてなく、いつまでも永久保存しておきたい作品がならびました。5年生スゴイ！



<6年生>

○平面「銀河鉄道の夜」

夜空を表現した藍色の世界。色の重なりが宇宙の奥行きを表現できていました。画用紙のまわりの切り絵も、一人一人デザインが違って工夫が見られ、真ん中の作品をしっかりと浮き立たせる役割をしていました。まるで天の川の上を渡る銀河鉄道の宇宙観を学年全体で見事に表現できたと思います。見に来られた方々から「さすが6年生だね」という声が聞かれました。

○立体「和紙からあふれる世界」

和紙からもれ出る彩り豊かな独特の光の濃淡がとても美しい作品たち。背景を飾る共同制作の4つの屏風がLEDライトに照らし出されて、幻想的な世界を創り上げました。個性あふれる6年生の子どもたちがチームとなって表現する素敵な空間を舞台の上に見事に表現できていました。あっぱれ6年生！



夢中になって挑戦する子どもたちに！

子どもたちが作品をつくり上げていく過程を見ていると、立花北小学校の子どもたちの中には、あまりまわりを気にする姿は見あたりません。図工展が近づくと、子ども「先生、これでいい？」先生「もう少し、ここのところ頑張りなさい！」子ども「先生、これでもういいでしょ？」先生「だから、ここのところもう少し頑張りなさい」…そんな光景が図工展前に見られます。ところが、本校では、子どもたちが黙々と自分の作品づくりに没頭する姿がありました。そのため、作品の中には、子どもたちが楽しんでつくった様子が伝わってくるものも多く見られたことと思います。

立花北小では、図工に限らず、音楽でも体育でも、他の教科でも、教材の面白さに触れて夢中になって挑戦できる（取り組める）学習を目指しています。その成果の一端をご覧いただけたなら、大変うれしく思います。

